

龍郷町立戸口小学校における環境教育推進の取組

1 本校の学校教育目標と環境教育の目標

学校教育目標：楽しく学び、心身ともに健やかで主体的に生きる子どもを育成する。

環境教育の目標：環境や環境問題に関心・知識を持ち、人間活動とのかかわりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や思考力、判断力を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動がとれる態度を育成する。

2 主な実践内容と考察

(1) 総合的な学習の時間「奄美の文化・自然を知ろう」4年

本校区は、龍郷町南部の大美川・戸口川流域の平地に広がっている。南東は太平洋に面し港湾が整備されており、集落三方は山に囲まれ温暖湿潤な気候が緑を育み自然豊かなところである。

4年生では、伝統的に伝わる戸口の文化や特有の自然について理解を深め、希少な文化芸能や島口を体験したり動植物に触れたりすることで、今後の自分たちには何ができるのかを考え、身近な環境への関心を高めている。(全15時間)

本年度は、校内外の樹木や草花の名前を調べ、八月踊りや島口などを体験できたが、文化面で集落の行盛神社の歴史や紬の泥染め等の調査が、まだ不足していると考える。今後は、他の学年や各教科の学習系統等と関連させ、本校ならではの環境教育カリキュラムを充実させていきたい。



【校内外の草花調査の様子 12月】

(2) 総合的な学習の時間「戸口の川を学ぼう」5. 6年

本校区を西から東に流れる戸口川には、「タナガ」と呼ばれる手長エビや「リュウキュウメダカ」「リュウキュウアユ」など貴重な生き物が生息しており、環境教育を進めるにふさわしい条件も揃っている。昨年度5. 6年生では、豪雨水害後の戸口川の調査や川の中の生物に視点を当てた学習を展開してきた。(全22時間)

本年度は川の流域に育つ樹木や草花の生態にも視点を当てて調査を進めた。(全22時間)

今回の学習では、2人の講師の方々から「川の周辺の樹木と草花」と「川の周辺の生き物や川のこれまでの変容」の解説を現地で受け、戸口川に関する知見と川を調査する方法を深めたり、身に付けることができた。今後は、この学習を年度ごとに積み上げ、本校独自の環境教育を創り上げ、さらなる探究活動の充実に努めたい。



【戸口川周辺の変容を聞く児童 11月】